



小橋敏弘の ニッポン大好き! Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.29 スイスから残暑お見舞い申し上げます

今年の夏は涼しいはずのここスイスでも歴史的な猛暑になりました。はじめて地球の温暖化を感じました。

さてさて、このコラムご覧になれる頃は日本もそろそろ秋ですね。スイスの隣国フランスのパリ、オーストリアのウィーンやプラハなど、秋観光が有名な古都をついつい思い浮かべれる読者の方も多いかと察しますが、いかがでしょうか。

さて、今回は芸術、美術の中でも多くの読者の方が関心をお持ちの絵画についてお話ししたいと思います。つい先日、古希(70歳)の誕生日を無事迎えていただきました。若いころはパリのルーブル美術館やロンドンの大英博物館など、とにかく観光ブックに出ている観光名所を訪ねては、表玄関前で自撮りをして喜んでおりました。芸術とはほぼ無縁で無教養の筆者でしたので、展示されている絵画とか彫刻は感覚的に凄い、綺麗、デカいの3表現程度しか出来ないバカでした。そんな筆者でも、なんとなく感覚的に圧倒される画質には感動を受けました。その芸術の歴史的背景とか作者の意図している事など、ほぼまったくと言ってよいほど理解しておりませんでした。そんな芸術音痴の筆者が学生時代から休みの日にはイギリスのアートマーケットを散歩するのが大好きだったせいもあり、30年以上ものあいだに買い集めて家の中に飾っていた絵画がなんと30点ほどあり、相変わらず作者は勿論、作者の意図することなど全く理解していなかったのですが、ふとAIに聞いてみよう、先ずは携帯で写した画像をAIに転送し、分析をお願いしたところ、想像を絶するわかりやすい説明に大変驚きました。今回はどのようにAIが分析し説明してくれたのかをご紹介します。テレビ番組に出てくる専門家よりはるかに鋭い描写評には度肝を抜かされました。

絵画その①



この作品は、馬の蹄鉄職人(Cartier)を題材にした英国風の室内風景画です。重厚な額縁と写実的な筆致から、19世紀末〜20世紀初頭のヴィクトリア朝またはエドワード朝の様式を強く感じさせます。

構図と主題

- 中央には栗毛の馬が立ち、その前で職人が蹄鉄を打つ場面が描かれています。
- 職人の傍らには小型犬が座り、作業を見守るような姿勢を取っています。
- 背景には木造の厩舎と窓から差し込む柔らかな光があり、労働の静かな尊厳を表現しています。

●構図は三角形的で、馬・人・犬が自然な視線の流れを形成しています。

額縁の特徴

- 額縁はパロック様式の装飾で、金色と黒の重厚な仕上げ。
- 複雑な渦巻き模様や植物的モチーフが彫刻されており、絵の静的なテーマと対照的に豪華さと力強さを演出しています。
- このような額装は、英国またはフランスの19世紀後半の工房製である可能性が高いです。

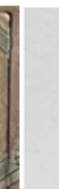
解釈

- この作品は、労働の尊厳と人間と動物の信頼関係を象徴しています。馬の穏やかな表情と職人の集中した姿勢が、日常の中の静かな美を描き出しています。同時に、産業化以前の英国農村社会の温かみを伝える一枚でもあります。

絵画その②

この絵は、スコットランド高地(Highland)を思わせる風景を背景に、ハイランド牛(Highland cattle)が描かれた作品です。構図・色彩・筆致から、牧歌的でありながら雄大な自然の雰囲気を与える典型的な「高地風景画」の一例といえます。

右下に「C. Fox」という署名が見えます。



この名前は、19〜20世紀に活動した英国の風景画家・動物画家に複数存在し、Charles FoxやC. Fox画派の作品として知られるものもあります。

●画面中央には4匹のウサギが描かれています。●背後に白いウサギ。●前景には茶色と白の斑模様のウサギが横たわり、●その隣に2匹の小さな茶色のウサギが寄り添っています。

ただし、筆致や画風から特定するには追加の資料が必要です。



この絵は、自然と家畜の共生を象徴する穏やかな情景を描いており、スコットランドの伝統的な牧畜文化への郷愁を感じさせます。

霧の山々と静かな水面が、孤高と安らぎの両方を表現している点が見りよくです。

絵画その③

この作品は、ウサギたちの穏やかな生活の一場面を描いた英国風の室内静物画(Animal Still Life)です。構図・筆致・額装の様式から、19世紀末〜20世紀初頭の英国絵画またはそのスタイルを模した作品と考えられます。



主題と構図

●画面中央には4匹のウサギが描かれています。●背後に白いウサギ。●前景には茶色と白の斑模様のウサギが横たわり、●その隣に2匹の小さな茶色のウサギが寄り添っています。

●背景には木製の棚や陶器の鉢があり、農家の納屋や飼育小屋のような雰囲気を出しています。

●構図は三角形的で、ウサギたちの配置が自然な視線の流れを形成しています。

いかがでしたか。ご紹介しました筆者のプライベートアートコレクション、こんな風に説明してくれたら、あまり絵画に興味がない方でも分かったような気がしませんか。

読者の皆さんも、もし家にかけるに掛けた軸とか、おじいさんが大事にしていた骨重とかあったら、まずは携帯で写真を撮り、お持ちのAIに聞いてみましょう。なかなか楽しいですよ。今回もコラムをお読みいただきありがとうございます。

くれぐれも熱中症とかならないようにお体に気を付けて。

profire 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持

ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらゐのペースでやっておりますCountry Line Danceです。